がくらおか

（題字は初代学長　山田守英氏）

第 162 号

平成 28 年 3 月 9 日

編集　旭川医科大学
発行　教務部学生支援課

「旭川冬まつり」　（写真撮影：学生支援課）

留学を通じて学んだこと
　～カナダ・トロントを訪れて～……武藤　理……2
口唇口蓋裂医療援助
　ボランティア診療隊に参加して……渋谷　夏姫……5
ベトナムでの医療援助活動に参加して
……小川莉佳子……6
第４回　医学科白衣式を行いました ……7
AMU DANCE CRANK自主公演 ……8
みどりの保育園で「ぬいぐるみ病院」を実施 ……8
ギター部・ジャズ研究会
　合同クリスマスコンサート ……9
室内合奏団クリスマスコンサート ……10
合唱部クリスマスコンサート ……10
授業評価（平成27年度前期）……11
医学科第５学年
　地域枠学生との懇談会を開催しました ……30
不要自転車の引き取りについて ……30
平成28年度前期授業料免除の申請について ……31
平成28年度
　日本学生支援機構奨学生の募集について ……31
訃　　報 ……32
学生証再発行の有料化について ……32
教員の異動 ……33
今後のスケジュール ……33
第162号表紙の写真について……33

留学を通じて学んだこと ～カナダ・トロントを訪れて～

医学科第６学年　武　藤　　理

まず最初に、このような留学報告の機会を頂き深く感謝申し上げます。

今回、カナダのトロント小児病院（The Hospital for Sick Children、通称：Sickkids）附属研究所で2015年6月から約半年間リサーチスチューデントとして研究留学をさせて頂きました。

留学に至った経緯についてですが、私は元々、難病治療に関わる基礎医学研究に大変興味があり学部3年生頃から生命科学教室の林要喜知教授の下で実験を学び始めました。林先生の御指導の下でピペットやクリーンベンチの使い方等、実験の基本から教わり今まで多くの実験を経験させて頂きました。その時から漠然とした目標として海外への研究留学を夢見ておりましたが、5年生の夏に米国メリーランド州ベセスダのとある研究室を一週間ほど訪問する機会があり、その時に初めて海外生活の大変さや英語でのコミュケーションの難しさを身に染みて実感することになりました。このままでは近い将来に長期留学なんて到底できないと思い、出来れば学生のうちに留学経験を積み色々な失敗を通じて将来のために準備をしたいと考えるようになりました。その後は、海外のサマースチューデント制度などを調べ何かアプライできるものはないかと必死に探しておりましたが、いずれも資格要件などの条件をクリアするのが難しく、一時は学部生での留学は諦めておりました。しかし幸運にも、今回の留学先であるトロント小児病院の研究室にリサーチスチューデントとして滞在するチャンスを頂き、思い切って休学して留学することにしました。一昨年の秋頃から準備を始めていましたが、結局のところ直前までビザが下りず、さらには渡加4日前に英文での予防接種歴を要求され、スーパーバイザーの変更なども加わり、心身ともに疲弊した状態で出国することになりました。渡加直後は時差ボケに悩ませられながらも病院全体のオリエンテーションに参加し、その後も各種の煩雑な手続きを行いましたが、その際もやはり英語の壁は厚く当初は身近に頼れる人もいなかったため非常に苦労しました。今振り返ると、渡加前後の1ヶ月は辛く、心の折れそうな日々の連続であったと想い起こします。

さて、話は変わりますが、今回滞在したトロントはNY、ロサンゼルスに次ぐ北米第3位の大都市で、全世界からの移民で成り立つ国際色豊かな都市でした。トロントの街中を歩くだけで様々な国の言語を耳にし、様々な国の文化・料理を体験することが出来ますし、治安も比較的良く生活面も含め日本人にとっては暮らしやすい都市の一つだと思います。また、私が長期滞在していたB&B（ベッド＆ブレックファースト）には日本人スタッフの方が常駐し安心安全に過ごせただけでなく、そこで本当に多くの人々に出会うことが出来ました。各国の旅行者以外にも、日本人研究者や大学院生、また同じように研究留学に来ていた医学部生や歯学部生の方々と知り合い非常に刺激を受けました。滞在者同士でよく一緒に食事を共にしたり、色々なイベントに参加したことは良き思い出になりました。

今回留学しましたトロント小児病院はトロント大学系列の研究・教育病院であり、世界三大

小児病院の一つにも数えられています。臨床はもちろんのこと研究機関としても非常に有名で、幹細胞研究では特に大きな業績を挙げています。留学先のDavid Kaplan教授およびFreda Miller教授御夫妻の研究室でも幹細胞を用いた神経系の発達、変性、老化、癌化などをメインテーマに研究が進められていました。私はDr. Natalie Grinshteinの下で膠芽腫の癌幹細胞に対する創薬スクリーニングのプロジェクトに関わることになり、約半年間彼女の指導の下で研究を行いました。当初は信用されておらず実験を一つやるのにも大変苦労しましたが、笑顔を忘れずめげずに丁寧に実験を行ったことが効を奏したのか、次第に重要な仕事も任されるようになりました。そんな中で自分のアイデアに基づく実験も出来るようになり、幾つかの興味ある結果を出したことで、最終的には彼女の論文の共著者として名前を入れて貰える事になりました。この過程で英語でのディスカッション能力も多少は磨かれましたが、改めて信頼関係を築くことにおいては言葉以外の他の要素（真摯な態度や目に見える結果）も極めて重要であると分かりました。このことは、今回の留学で学んだ一番大切なことかも知れません。

また、約25名程度が所属する比較的大きなラボであったため、周りのラボメンバーも国際色豊かで、各国の文化や言葉を知ることが出来たのは貴重な経験になりました。カナダ出身者以外にロシア、チリ、ウクライナ、イタリア、エストニア、中国、イギリス、レバノン、アルバニア、オーストラリア…、本当に様々なバックグラウンドを持つ人々が研究室に集まり互いに協力して仕事を進めていました。研究環境も充実していて学生一人一人にもデスクとラボベンチが準備され、週一のラボミーティングだけでなく至る所で頻繁に招待セミナーが開かれており、各分野の最新の知見を得る機会が与えられていました。またラボミーティングやセミナーを通じて、ディスカッションや色々なプレゼンテーションの方法を学ぶことが出来たのも非常に有意義でありました。

そして、次第に他のメンバーとも仲良くなり実験やラボにも慣れてくるようになって、研究だけでなく余暇も楽しむことが出来るようになりました。具体的には、トロントの観光地以外にもナイアガラやケベックシティへ小旅行したり、各種のスポーツ観戦も楽しみました（MLB、NBA、NHLなど）。トロントは旭川とほぼ同緯度の非常に寒い街でしたが、昨年はブルージェイズがポストシーズンまで勝ち進み、トロントの街はブルージェイズフィーバーで非常に熱くなっていたことをよく覚えています。

気づいてみれば当初の大変さがウソのように、充実した留学生活を送れるようになっていました。改めて、無事帰国してこのように報告させて頂けるのも多くの方々の支えのおかげに他なりません。今回利用させて頂いた本学の海外留学助成制度による経済的援助に加え、研究の基礎を教えて下さり推薦状まで書いて下さった林要喜知教授、トロント生活やDavid/Freda研究室について詳しいアドバイスを下さった兵庫医科大学神経解剖学の藤谷昌司准教授、休学の際に相談させて頂いた小児科学教室の東寛教授、各種手続きについてご尽力下さいました学生支援課、保健管理センターの職員の皆様に深く感謝申し上げます。そして最後に、今回の留学について理解と協力・応援をしてくれた家族・友人に対して、この場を借りて心より感謝申し上げます。

Sickkids附属研究所（Peter Gilgan Centre for Research and Learning：PGCRL）にて：

クリスマスパーティーにて：
左から筆者、Natalie(スーパーバイザー)、David(ボス)

PGCRL18階のDavid/Freda研究室の様子

ラボメンバーと。

ブルージェイズの本拠地ロジャースセンターにて。

口唇口蓋裂医療援助ボランティア診療隊に参加して

医学科第４学年　渋　谷　夏　姫

今回、2015/12/23から12/31までの9日間、ベトナム社会主義共和国で20年以上続く口唇口蓋裂の無償手術のボランティアに参加させて頂きました。

国際支援というものを考えるとき、私はいつも「世界がもし100人の村だったら」という2001年に出版された本を思い出します。当時私は中学生でしたが、その内容に衝撃を受けました。世界がもし100人の村だったら、「80人が標準以下の居住環境に住み、70人は文字が読めません。50人は栄養失調に苦しみ、1人が瀕死状態にあり、1人は今生まれようとしています。」これはもう15年前の本となり、この間で世界の現状は少しずつ良くなっています。しかし今回訪れたベトナムでは貧富の差が激しく、人口の11%に当たる約1030万人が栄養不足の状態だと言われています。

ベトナムでの活動は約90名の患者の診察から始まり、計4日間の手術、現地病院の見学、患者さん宅への訪問、障害児学校への慰問などを通して、途上国への医療支援の重要性について学ぶことができました。手術を行った病院のあるベンチェ省は患者さんが裸足で来院されたり、実際に見学した患者さん宅は壁がダンボールで作られていたりとベトナム国内での貧富の差をありありと感じました。

一般的な国際的な支援のありかたとして、いずれは技術を移転しベトナム国内で手術を行えるようにすることが正しいのかもしれません。ですが、未だに貧富の差が大きいベトナムが自国で手術を賄うようになれば貧困層の患者さんは手術を受けることができなくなるかもしれません。口唇口蓋裂は貧富の差に関わらず、どの赤ちゃんにも起こりうる障害です。日本の医療団が行う無償の手術は、見た目や構音、栄養状態に影響する口唇口蓋裂において、社会参加への足枷をとるために非常に価値ある活動と感じました。

「世界がもし100人の村だったら」は次のような言葉で結ばれています。「昔の人は言いました。我が身から出るものはいずれ我が身に戻り来ると。お金に執着することなく喜んで働きましょう。かつて一度も傷ついたことがないように人を愛しましょう」

今回のベトナムで経験したことを糧に、人を愛し、病いの中にある人のために献身的である医師となりたいと思います。

ベトナムでの医療援助活動に参加して

医学科第３学年　小　川　莉佳子

私は、平成27年12月23日から31日までの8日間、ベトナムのベンチェ省にて、口唇口蓋裂などの先天的な口の病気の方々に医療活動を行う、通称「ベンチェミッション」に参加させていただきました。この活動への参加を希望したのは、海外での医療支援を実際に自分の目で見てみたいという思いがあったことと、大学での病院実習より早く、近くで手術を見られることに魅力を感じたからです。ベンチェ省はホーチミン市から南西に車で約2時間の、メコン川のデルタ地帯にあり、ココナッツの森林に囲まれた農業が盛んな土地です。

全国から集まって来たミッション参加者は12月23日深夜に現地に到着し、24日午前に手術室の設営を行い、午後からは約100人の患者さんの術前診察を行いました。25日からは手術が始まり、計4日間で46例に対して行いました。私は中央機材係で、器具の滅菌の手伝いが主な仕事でしたが、慣れてくると様々な症例の手術を見学したり、旭川医科大学病院チームの手術では第3助手として参加させていただいたりして、とても貴重な経験となりました。また、ルート作りや、術前術後の症例写真の撮影などもさせていただき、有意義に過ごすことができました。

現在では、妊娠20週を超えると超音波検査により胎児の奇形の有無がおおよそ判断できるそうです。日本では裂閉鎖や骨移植の手術、歯列矯正、言語療法などの治療によりほとんどの場合で不自由なく暮らせるようになりますが、ベトナムでは治療が十分に行えない、あるいは医療費が支払えないために、奇形が分かると結構な数の妊婦さんが中絶してしまうと聞きました。今回のような医療支援を通して現地の医療技術・制度の発展に貢献することで、命の絶たれてしまう胎児を少しでも減らしていけたらと思います。

最後になりますが、今回このような素晴らしい機会を与えていただいた旭川医科大学歯科口腔外科の松田教授をはじめとし、2015年度ベンチェミッションに参加された方々、および学生海外留学助成制度をご支援いただいている吉田学長をはじめ関係者の方々に心より感謝を申し上げます。

手術中の様子

第４回　医学科白衣式

平成28年２月12日（金）旭川医科大学看護学科棟大講義室において、臨床実習開始前の医学科第４学年を対象とした第４回医学科白衣式を執り行いました。

白衣式は、これまでの学習努力を讃えるとともに、臨床実習を始める前に備えるべき必要最低限の総合的知識及び基本的診療技能と態度を評価する共用試験と呼ばれる評価試験を通過した学生に、これからの本格的なトレーニング（臨床実習）に取り組む心構えを明確にすることを目的に行っています。

式典では、まず、吉田晃敏学長より、医療人としての心得とはなむけの言葉が贈られ、その後、学長をはじめとした８名の指導教授より、学生一人ひとりに白衣を着せていただきました。一人ひとり白衣を着せていただく時間の中で、まもなく始まる臨床実習に臨むにあたり、医師を目指す医学生としての自覚、心構え、医療に携わる責任感・使命感を再認識したのではないかと思います。

最後には、学生たちがめざす医療人としての目標を、第４学年出席者全員で宣誓を行い、社会や患者さんの信頼に応えられる医療人、患者さんへの思いやりと使命を持った医師をめざし、新たな一歩を踏み出しました。

［40期生　誓いの言葉］

仲間たちと高め合い、全人的医療を追求する医師を目指します。

向上心を忘れず、更なる己の技術、知識の研鑽に努めます。

豊かな人間性をもち、患者さんにとって身近な存在になれるよう尽力します。

高い専門性を持ちつつ、地域に根ざした医療を志します。

広い視野と高い倫理観を備えた、国際社会でも活躍できる医師を目指します。

固定観念にとらわれず、常に最善を模索することを誓います。

AMU DANCE CRANK 自主公演

11月28日（土）旭川市公会堂においてAMU DANCE CRANKによる自主公演『the CRANK ～history～』が開催されました。本公演はCRANKを立ち上げた学生が今年度卒業を迎えるにあたり、自分たちの力で大きな舞台を作り上げたいという想いから生まれた記念すべき公演です。

第１部の幕があがると、B’zの「LOVE　PHANTOM」から始まり会場は大盛り上がり！北海道教育大学旭川校、名寄市立大学、旭川東高等学校の学生・生徒もゲストとして出演し、共に会場を盛り上げてくれました。第２部はCRANKの設立から公演当日に至るまでの～history～を映像で振り返りながら、彼らにとって思い出深い曲を披露しました。映像からは、部活を立ち上げてから部員を集めるまでの苦労や、学生のCRANKへの熱い想いが伝わりました。最後は全出演者がステージで踊り、盛大な拍手のなか幕を下ろしました。

今回の自主公演で、また一歩成長したAMU DANCE CRANKの今後の活躍に期待しています。

大学の森みどりの保育園で「ぬいぐるみ病院」を実施

12月18日（金）「旭川医科大学大学の森　みどりの保育園」において、旭川医大IFMSAによる「ぬいぐるみ病院」が行われました。今年度は７月16日（木）に第１回目が実施されたのに引き続く第２回目のもので、多くのお兄さん・お姉さんが登場すると、子ども達のテンションは一気にアップ！

最初に、IFMSAの学生が手洗いや水分補給の大切さを伝える劇を行い、その後、年中・年長の園児を対象に、ぬいぐるみを患者に見立てた診察ごっこを行いました。子ども達は各々ぬいぐるみに付き添い、名前や年齢、どこが具合悪いか、など医師・看護師役の学生に伝え、その後、検査や治療をしてもらいます。

旭川医大IFMSAでは、このような活動を通して、子どもの医療への理解や関心を深め医療行為に対する不安感を和らげる手助けを行っています。

ギター部&ジャズ研究会　合同クリスマスコンサート

12月５日（土）14時から、ギター部とジャズ研究会による合同クリスマスコンサートが開催されました。この日は、合同コンサートということもあり、多くの入院患者さんやお見舞い客、そして沢山の学生が集まりました。ギター部は、「恋人はサンタクロース」や「いつかのメリークリスマス」などの６曲を演奏。ジャズ研究会は、部員が増えたこともあり今年度はビッグバンドによる演奏も取り入れ、「ルパン三世のテーマ’78」や「It Don’t Mean A Thing」を含む７曲を披露しました。曲間では、音響機材操作を行うPA（Public Address）さんの紹介など、各部長による堂々としたMCも行われ、楽しいひと時を過ごすことができました。

室内合奏団クリスマスコンサート

室内合奏団クリスマスコンサートが、12月12日（土）13時30分から病院玄関ロビーにおいて開催されました。この週は、病院ロビーに生モミの木のクリスマスツリーもお目見えし、「Joy to the world（もろびとこぞりて）」や、まさかの演歌曲「津軽海峡冬景色」、そしてパイレーツ・オブ・カリビアン」シリーズのテーマ曲でもある「彼こそが海賊（He’s a pirate）」等の演奏が行われました。

曲の途中では、サンタやトナカイに扮した学生達が、来聴者一人一人にクリスマスプレゼントを手渡し、患者さんをはじめ多くの方々がクリスマス気分を味わいました。

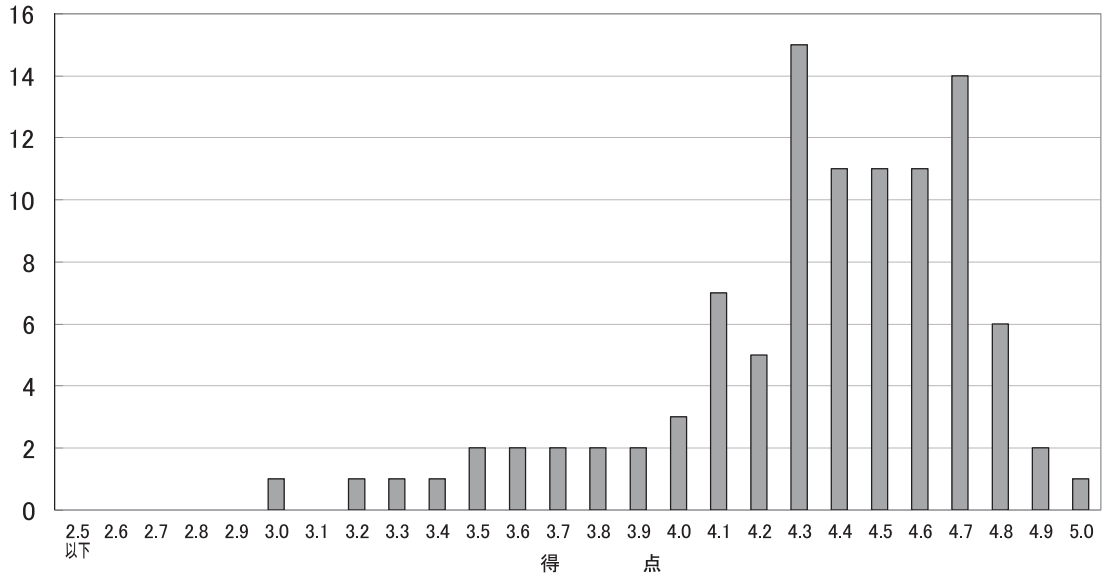
合唱部クリスマスコンサート

室内合奏団のコンサートに引き続き、12月12日（土）15時30分から同会場において合唱部のクリスマスコンサートが行われました。ライオンキングの「Circle of life」から始まり、OB・OGステージでは本学卒業生と在校生が一緒に「川の流れのように」を合唱、そして、第１学年の学生がディズニーのキャラクターやサンタ―クロースの衣装で、楽しいダンスを披露しました。最後に、今回のコンサートをもって引退となる先輩方を前に、涙をこらえて感謝の歌声を贈りました。

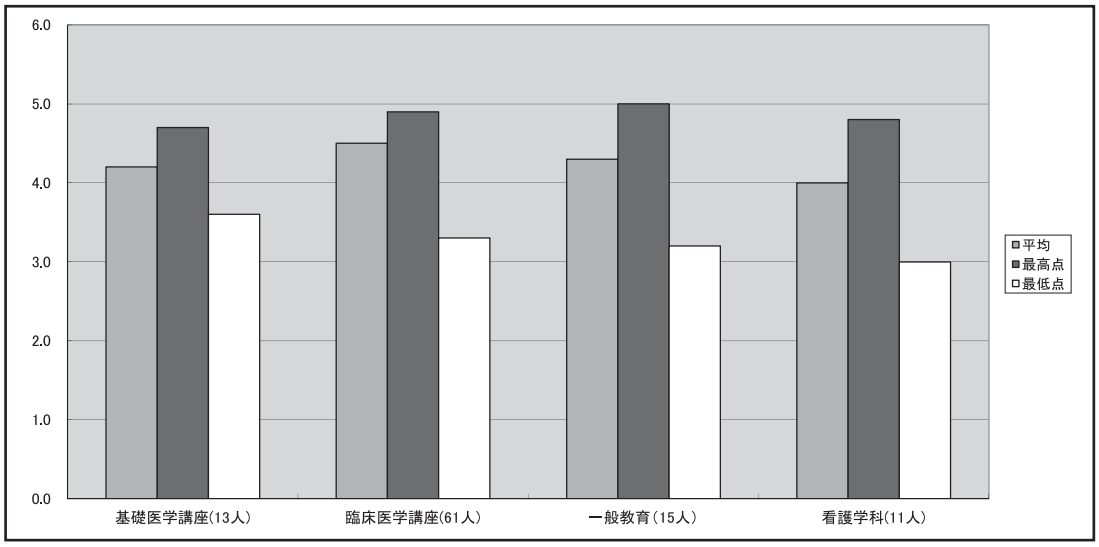
平成27年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

	得																								点
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
人数	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	2	2	2	2	2	3	7	5	15	11	11	11	14	6	2	1

（実施人数100名 平均4.1）



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問　この授業は全体として満足できるものでしたか。

⑤　強くそう思う　　(非常に良い)
④　やや思う　　(良い)
③　どちらとも言えない　　(普通)
②　あまりそう思わない　　(あまり良くない)
①　全くそう思わない　　(良くない)

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履習態度について	問１　事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。
	問２　授業に毎回出席しましたか。
	問３　授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。
	問４　授業の復習・宿題を毎回しましたか。
目的の達成	問５　科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問６　あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
	問７　科目を履修することで，今後の学習意欲は増しましたか。
総合評価	問８　この科目は全体として満足できるものでしたか。

⑤　強くそう思う　　(非常に良い)
④　やや思う　　(良い)
③　どちらとも言えない　(普通)
②　あまりそう思わない　(あまり良くない)
①　全くそう思わない　　(良くない)

科 目 名：自然科学入門（物理系）(医学科第１学年前期／選択必修)
履修者数：35　配付数：35　回収数：35　回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.6	5.0	4.1	2.8	3.2	3.3	3.5	4.0

＊評価に対するコメント　　自然科学入門（物理系）担当教員

総合評価は4.0で過去最高であった。また、問７の学習意欲に対する評価も例年に比べ高かった。本科目が主に物理未履修者を対象としたリメディアル科目であるにもかかわらず、高い評価を受けたことは喜ばしいことです。近年取り組んできた授業改善の成果が表れてきたものと判断しています。今後も、この評価結果を維持できるよう、授業改善に取り組んでいきます。

科 目 名：自然科学入門（化学系）(医学科第１学年前期／選択必修)
履修者数：1　配付数：1　回収数：1　回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
4.0	4.0	5.0	4.0	3.0	3.0	4.0	5.0

＊評価に対するコメント　　自然科学入門（化学系）担当教員

今年度受講した学生は1名であった。高校で化学を履修した学生であったため、講義では高校の化学の復習ではなく、今後の基礎化学の講義内容との連結のために、高校では明確に教えられない、原理や法則の基本的な理解の仕方を重点的に説明した。また、学生と積極的に対話し、学生が持つ疑問点や、さらに将来への希望などについても話してもらえるよう心がけた。学生が、化学が事実の暗記ではなく、原理や法則の理解によって成り立っていることに気づいたことが高い評価につながったと考えている。

科 目 名：自然科学入門（生物系）（医学科第１学年前期／選択必修）
履修者数：76　配付数：76　回収数：76　回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.6	4.8	4.2	3.1	3.4	3.5	3.9	4.3

＊評価に対するコメント　　自然科学入門（生物系）担当教員

本講義は高校生物の補修を目的としている。今年から生物基礎（新課程）を履修した学生が入学するため、講義内容を大幅に刷新した。総合評価は、昨年度と比較して0.5ポイント上昇した（昨年3.8）。講義内容の刷新により、比較的医学に直結する内容が増えたため、興味を持って講義に臨む学生が増えたのかもしれない。

科 目 名：地域医療学（医学科第１学年前期／必修）
履修者数：112　配付数：112　回収数：108　回収率：96.4%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.4	4.8	3.8	2.6	3.7	3.9	3.9	4.0

＊評価に対するコメント　　地域医療学　担当教員

旭川医大が目指す地域医療がどのような形であるかに絞って、例年と同様に授業を計画しました。現役で地域医療を担当されている外部講師の先生からの講義も取入れ、実際の話に学生が深く耳を傾ける姿勢が見られ、それが講義全体の満足度につながっていると思います。

科 目 名：医療概論1（医学科第１学年前期／必修）
履修者数：112　配付数：112　回収数：109　回収率：97.3%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.4	4.6	3.4	2.4	3.2	3.4	3.3	3.6

＊評価に対するコメント　　医療概論1　担当教員

内容も難易度も昨年度までと全く変わらないにもかかわらず、評価は例年になく低かった。といって担当教員には反省すべき点は思い当たらない。ただし、教育以外の雑務に追われ授業の予習にあてる時間が若干少なかったことは認めざるを得ない。期末試験（国家試験に準じた択一式50問）の結果から判断する限り、できる者とできない者との差が激しく、山が２つできた。低いほうの山に属する学生が低評価をつけたものと想像している。担当教員は、この科目の前身の「社会医学基礎Ｉ」の時代も含めると14年間も毎年この分野の講義を担当してきた。マンネリ化してきたことは否めない。来年度からは別の担当者に替わる。はつらつとした若手である。大いに頑張っていただきたい。

科 目 名：情報統計学（医学科第１学年前期／必修）
履修者数：114　配付数：114　回収数：110　回収率：96.5%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.7	4.6	3.7	3.0	3.4	3.2	3.3	3.5

＊評価に対するコメント　　情報統計学　担当教員

全体評価として昨年度と同程度の評価をいただきました。また問２，３が比較的高く、問１，４が低い傾向が続いています。これは予習復習もせず、出席さえすれば単位取得できるという心構えの学生が未だに多いことを示しています。本年度から授業前の予習の必要性を強調していますが、慣習を改善する努力を継続していきます。

また昨年度以降学習内容を拡充していますが、今年度は問５，６，７が昨年度に比べて改善しました。

学生の取り組み姿勢がよくなった傾向と受け止めています。

今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。

科 目 名：心理学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：112　配付数：112　回収数：110　回収率：98.2%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.3	4.7	3.7	2.6	3.6	3.8	3.9	4.3

＊評価に対するコメント　　心理学　担当教員

本講義の目的は、医療に必要な心理学の基礎知識を修得することである。講容は基礎心理学（実験心理学）・臨床心理学・発達心理学の３分野から構成されている。

予習・復習についての評価は2.3，2.6という低い結果であった。それゆえ、予習・復習について、よりきめ細かな指導が必要であると思われる。

一方、出席と意欲は4.7，3.7，難易度と学習意欲についての評価は3.6，3.8、科目全体の目的到達についての評価は3.9であり、さらに、全体的な満足度は4.3というある程度高い結果が得られた。これらの理由としては、各分野の知識を精査して緻密な講義を行ったこと、授業内容のプリントを配布したこと、実験や心理検査を適宜取り入れたこと等が考えられる。

科 目 名：免疫学（医学科第２学年前期／必修）
履修者数：118　配付数：62　回収数：52　回収率：83.9%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.8	3.8	3.4	2.9	3.2	3.4	3.5	3.4

＊評価に対するコメント　　免疫学　担当教員

問７、８で、いずれも３点台の評価を頂きました。これは、免疫学は多領域にまたがり、内容的にもファジーで難しい学問領域のためかと思われます。また専門の講座もないため、多くの講座の先生によって開講されているのも要因です。ぜひ学生諸君には、自ら学ぶ姿勢で、講義で疑問が生じた際には、遠慮なく教官の方へ質問していただきたいと考えます。

科 目 名：生化学2（医学科第２学年前期／必修）
履修者数：116　配付数：116　回収数：104　回収率：89.7%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.1	4.1	3.6	3.3	3.7	3.4	3.8	3.9

＊評価に対するコメント　　生化学２　担当教員

生化学２は生化学1に引き続いて人体を機能させている代謝について、病態と関連付けて紹介しています。

主な御意見は2つ、難解・分量過多(3/8)、喋りが聞き取りづらい(2/8)でした。例年よりご意見が少なくてちょっと拍子抜けですが、前者については、恒例のもの、何故、医師が高度専門職と言われるのか、もう一度考え直して下さい。11年分の過去問は一通り抑えたのでしょうか、分からなかったら質問に来て下さい。医学固有の単語や概念の山を、とりあえず詰め込んで行くのは、古今東西、医学生の宿命と言えます。まだまだ先は長い、解剖、生理、病理、法医、公衆衛生、臨床科目ですが、必ず飽和して閉じた世界であることが見えてきます。頑張って精進を続け、良い医師を目指して下さい。もちろん、人生のこの時期にしかできないことも多々ありますし、知識だけで良い医師になれるということでもありません。存分に旭医を堪能し貪り尽くして、良い医師になるための糧として頂きたいと思います。聞き取りづらい点については、マイクの音量を大きめにして参ります。

科 目 名：医療概論２（医学科第２学年前期／必修）
履修者数：113　配付数：112　回収数：78　回収率：69.6%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.7	4.3	3.5	3.5	3.5	3.6	3.4	3.6

＊評価に対するコメント　　医療概論2　担当教員

各講師から医療や臨床研究に関する倫理的・哲学的な内容について講義をしました。皆さんの将来の仕事は社会的、制度的な面にも大きな影響を受けています。これからは講義の内容以上の発展的な学習を自主的に行う必要、研鑽を積んで社会の情勢に応じた対応ができるようにしていってください。

科 目 名：組織学（医学科第２学年前期／必修）
履修者数：125　配付数：112　回収数：89　回収率：79.5%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.1	3.6	3.6	3.2	3.3	3.0	3.6	3.5

＊評価に対するコメント　　組織学　担当教員

本科目では成績判定基準を事前に周知するとともに試験結果を詳細にわたりすべて公開し、公正で透明性の高い成績評価を心がけている。講義内容および試験の形式・難易度は例年と変わらないが、年々、本学に入学する学生の学力が低下しつつある影響を受けて、本年度も組織学に関して消化不良の学生が増加したのか昨年度から総合評価点がやや下がった（昨年3.8、今年3.5）。そろそろ6年間で医師として必要な知識や技能を身につけるのが厳しい状況になってきたのかもしれない。

科 目 名：医学英語Ⅲ（医学科第3年前期／必修）
履修者数：132　配付数：127　回収数：116　回収率：91.3%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.3	4.5	4.3	3.6	3.8	3.7	3.9	3.9

＊評価に対するコメント　　医学英語Ⅲ　担当教員

医学英語Ⅲは、学生のみなさん全員が取り組むe-learningコースと、講師ごとに分かれて行う選択コースの組み合わせで展開しました。多くの建設的なフィードバックをありがとうございました。今後の授業計画に反映していきたいと思います。選択コースに関しては、内容には満足しているというコメントがありました。積極的な授業参加を促すよう、来年度も工夫したいと思います。ガイダンス時の説明を詳しくしてほしいとのコメントもありましたので改善したいと思います。

科 目 名：医療概論3（医学科第3年前期／必修）
履修者数：132　配付数：132　回収数：112　回収率：84.8%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.4	4.5	4.0	2.6	3.8	3.9	3.8	4.0

＊評価に対するコメント　　医療概論３　担当教員

医療概論３は「医療概論」全体として医療人としての素養や意欲の修得を目的としており、一連の講義の最後に他で扱われなかった講義と演習からなるために、統一感が無く全体の到達目標も分かり難いことは否めません。知識中心でないため予習・復習もし難いと思われ、そうした項目の評価が低めである中で、科目全体の満足度が４を上回ることは科目として一定の役割を果たせたと考えます。

科 目 名：心肺病態制御医学（医学科第３学年前期／必修）
履修者数：136　配付数：136　回収数：123　回収率：90.4%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.9	3.7	3.7	3.1	3.5	3.5	3.8	3.8

＊評価に対するコメント　　心肺病態制御医学　担当教員

全体評価は3.8で、昨年の4.2、一昨年の3.9と比べて、低下傾向となっている。細目別では、問1の予習に関する設問に対する評価が2.9と目立って低く、自由記載欄に記載されていた「講義の順番が予定と全く異なり、予習ができなかった」という状況が低い評価となった背景にあるものと推察される。長年講義してきた数名の教員が異動になったことや、学会等で講義順が交代になったことなど、講師側の事情が影響しているものと考えられる。勿論、事前に各講師に日程調整をした上で予定を組んでいるのではあるが、次年度は今年の反省を踏まえて、できるだけ予定通りに講義が進むよう余念のない講義日程を組むよう留意したい。なお、問4の復習に関する設問も3.1と低評価であり、学生の学習意欲を向上させる努力も必要と考えられる。

科 目 名：整形外科学（医学科第４学年前期／必修）
履修者数：103　配付数：71　回収数：17　回収率：23.9%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.0	4.7	4.0	3.4	4.0	4.3	4.2	4.2

＊評価に対するコメント　　整形外科学　担当教員

回収率は23.9%であり、学生自身の努力を表す問１－４は平均3.73±0.7であった。これは学生の講義に対する関心やモチベーションの低さを表していると推察する。学生の要望などをうけ講義企画は毎年改定しているが、構成や内容を表す問５－８は平均4.1±0.1であった。今後は、学生自身が講義の必要性と価値を見いだしていけるよう、講義の到達目的を確実に共有し、更なる履修内容の充実をはかっていく。

科 目 名：衛生・公衆衛生（医学科第４学年前期／必修）
履修者数：103　配付数：103　回収数：30　回収率：29.1%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.9	4.6	4.0	3.2	3.9	4.2	3.9	4.1

＊評価に対するコメント　　衛生・公衆衛生　担当教員

資料の冊子化を希望する意見がありましたが、毎年の統計情報を更新し、医療制度に関わる法律上の変更なども講義の直前までアップデートを心がけているので、あらかじめ資料を冊子にすることができません。内容は臨床医となっても生涯学習をしていく必要のある範囲が多く含まれていまので、これからは自ら本領域の最新情報にアクセスするようにして下さい。

科 目 名：臨床放射線学（医学科第４学年前期／必修）
履修者数：103　配付数：103　回収数：92　回収率：89.3%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.9	4.3	3.6	3.0	3.4	3.2	3.5	3.7

＊評価に対するコメント　　臨床放射線学　担当教員

放射線医学は放射線治療、画像診断学ともに広範な領域を対象とするため、各項目の講義に十分な時間を避けないのが残念です。画像診断の診療における重要性・奥深さ、放射線治療の急速な進歩・癌治療における重要さを、臨床実習で引き続き学んでいただきたい。

科 目 名：腫瘍学2（医学科第４学年前期／必修）
履修者数：103　配付数：103　回収数：90　回収率：87.4%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.6	4.3	3.7	2.8	3.3	3.0	3.5	3.6

＊評価に対するコメント　　腫瘍学２　担当教員

腫瘍学２は、がんに関する総論的・基礎的知識を学ぶ腫瘍学1に引き続いて、各領域で行われているがん診療の臨床的・社会的実態を学ぶ講義である。総合評価は3.6とやや物足りない評価で、また、講義時間に対して内容が多いとの意見もあった。各領域別講義の中からがんに関した内容が集中して行われており、知識の整理を兼ねて受講していただきたい。

科 目 名：生殖発達医学（医学科第４学年前期／必修）
履修者数：104　配付数：104　回収数：104　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.1	4.0	3.7	3.2	3.6	3.7	3.8	3.9

＊評価に対するコメント　　生殖発達医学　担当教員

問７、問８の平均が3.8,　3,9と４に近い事は、授業の内容がある程度受け入れられていると判断したいところである。今後は、より学習意欲が増すように授業の内容を充実してゆくのが理想であろう。

科 目 名：法医学（医学科第４学年前期／必修）
履修者数：104　配付数：104　回収数：91　回収率：87.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.3	4.3	4.2	3.5	4.1	4.2	4.3	4.4

＊評価に対するコメント　　法医学　担当教員

法医学は、基礎医学の中の社会医学に位置し、的確な死体検案書を書ける臨床医になるために必要な知識を教える科目である。授業評価の評点は概ね４点以上であり、実りある講義であったと評価された。予習帳を配布しているので、もう少し予習してくれることを希望する。講義が学生に興味をもって受け入れられたことに感謝している。

科 目 名：麻酔・集中治療学（医学科第４学年前期／必修）
履修者数：103　配付数：103　回収数：98　回収率：95.1％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.2	4.2	3.9	3.3	3.8	3.9	4.1	4.1

＊評価に対するコメント　　麻酔・集中治療学　担当教員

麻酔・集中治療学は、麻酔・蘇生学および救急医学の２講座で構成されており、主に急性期の侵襲制御に関する内容を網羅している。講義のスライドや資料をオンライン化して３年目になりペーパーレスに対する理解も得られ、講義に対する評価もおおむね良好であった。今後も本講がより一層中身の濃いものになるよう取り組んでいきたい。

科 目 名：看護社会論（看護学科第１学年前期／必修）
履修者数：60　配付数：58　回収数：56　回収率：96.6％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.3	4.8	4.2	2.9	3.7	4.3	4.6	4.6

＊評価に対するコメント　　看護社会論　担当教員

評価点は各問とも例年と同様、かなり高く、教員の手応えとも一致している。しかし、学生の準備学習の方は相変わらず低得点で、学生がもっと予習してくるよう促せばよかったと反省している。もともと担当教員は「看護社会論」よりは「医療史・医療哲学」の方が専門であるが、専門外のためかえって教員が授業前にきちんと予習をしたためか、評価は例年、前者の方が後者よりも高かった。昨年度からは後者の方を緩和ケア診療部の専任講師にゆだねてきた。来年度からは、「看護社会論」の方も、新規採用の医療社会学専攻の専任講師が担当する予定である。両科目ともますます充実した内容の講義になるよう期待している。

科 目 名：情報リテラシー（看護学科第学1年前期／必修）
履修者数：60　配付数：59　回収数：59　回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
1.8	4.7	3.9	2.2	3.7	4.0	3.9	4.6

＊評価に対するコメント　　情報リテラシー　担当教員

この教科は、予習や復習を必要としない授業を行っています。そのため、問１、４の回答は低い評価値になるかもしれません。前年度の学生評価を受けて、「グラフ作成技術」について充実させました。特に、レポート課題（心理学その他）の内容を扱い実践的な作業を行いました（好評であった）。今年度の履修者は全体に大変熱心に受講していました。そのため、より高いレベルまで講義の内容を展開することができ、学生と一体になった授業を行うことができました。問8の評価（4.6）を光栄に思います。今後は、到達目標の達成（問５）を目指して更に改善して行きたいと思います。

科 目 名：看護学概論（看護学科第１学年前期／必修）
履修者数：65　配付数：60　回収数：56　回収率：93.3%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
4.4	4.9	4.2	4.2	4.0	3.9	4.0	3.8

＊評価に対するコメント　　看護学概論　担当教員

今年度は予習を徹底する目的で事前学習課題とノートまとめを課しました。取り組みは大変良く、目標達成はできたのですが、負担感は大きく不評でした。単にたくさん書けばよいのではなく、重要点を見つけて“自らの学びとするため”のノート作りとなるように次年度はさらに工夫します。

科 目 名：医療史・医療哲学（看護学科第１学年前期／必修）
履修者数：60　配付数：60　回収数：53　回収率：88.3%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
1.7	4.8	3.5	1.9	3.5	3.9	3.8	4.3

＊評価に対するコメント　　医療史・医療哲学　担当教員

「なぜ人は人をケアするのか」「病気とはなにか」「自律の尊重とはなにか」など、看護に底流する哲学的課題について、学生自らが考える形式の講義を展開した。難易度の高さを危惧していたが、評価やレポートを見ると、興味を持って参加しており、考えを深めることができていたようである。

科 目 名：看護化学（看護学科第１学年前期／必修）
履修者数：60　配付数：56　回収数：51　回収率：91.1%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.1	4.5	3.9	2.6	3.3	3.0	3.2	3.5

＊評価に対するコメント　　看護化学　担当教員

“事前に予習をする”ことと“授業の復習をする”ことのポイントが低かった。例年の傾向だが、講義の重要性と、講義内容が大学と高校で格段に違うということを理解していない結果と思われる。“講義内容が難しい・多い、スピードが速い”“基礎的なところでも詳しく説明してほしい”という要望があったが、大学では高校よりも一段と高い概念を学習しなければならない一方で、講義時間は少なく、進行を速くせざるを得ない。是非これに追いつくくらいの努力をしてほしいし、君たちには十分可能だ。黙って口を開けて待っていれば知らないうちに実力が身に付くなどと誤解のないように。講義は受講生全員を対象にしているので、全ての学生の個性に合わせることは難しい。しかし、質問はいつでも受け付けているので、そこで解決してほしい。でも、質問に来ないで、学力も身に付かない学生が多いです。基礎化学の素養がないために上級学年で困っている学生がいるという事実に思いをはせて下さい。

科 目 名：看護基礎物理（看護学科第１学年前期／必修）
履修者数：59　配付数：59　回収数：57　回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.2	4.7	3.8	2.5	3.5	3.3	3.1	3.5

＊評価に対するコメント　　看護基礎物理　担当教員

講義内容・担当教員に昨年からの変更はありません。しかし、問５（到達度）と問６（難易度）の評価が0.5、総合評価（問８）も0.3、昨年より上がりました。問３（講義への積極的参加）と問４（復習）が0.2前後上がっていたことから、学生の努力が、講義内容の理解につながり、問５と６の上昇をもたらしたと推測されます。しかし、問４の値は2.5とまだまだ低いです。講義の理解度を上げるには、教員の努力だけでは不可能であり、学生の努力が欠かせません。学生には、今後もより一層の努力を期待します。

科 目 名：発達心理学（看護学科第１学年前期／必修）
履修者数：59　配付数：59　回収数：59　回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.1	4.7	3.7	3.4	3.7	3.8	3.9	4.1

＊評価に対するコメント　　発達心理学　担当教員

学生自身についての評価では、「出席」、「努力」、「復習」が4.7、3.7、3.4であった。一方、「予習」の評価は2.1と低い評価になった。また、難易度と学習意欲についての評価はどちらも3.7、3.8というある程度高い評価であった。これらのことから、今後は学生に対する予習・復習の指導等の工夫が必要であろう。

一方、意欲や全体の満足度については3.9、4.1という評価が得られた。これは、基礎心理学と発達心理学の基礎知識を有機的に連動させて講義を構成したこと、前半に実習形式の授業を取り入れたこと、スライドやビデオを適宜使用したこと、講義内容のプリントを毎回配布したことによるのではないかと考える。

科 目 名：生命科学（看護学科第１学年前期／必修）
履修者数：59　配付数：59　回収数：57　回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.4	4.7	3.9	2.5	3.7	4.0	4.2	4.3

＊評価に対するコメント　　生命科学　担当教員

講義企画に対する学生評価は概ね良好であり、具体的な感想でも学習意欲を増す企画であったと評価するコメントが多かった。ただ、少数ではあるが、高校教育過程で生物を履修していない学生への対応は必ずしも十分ではないとの指摘があった。必要に応じて補習あるいは補講授業を実施する対応をとっているが、長期的にはリメデイアル教育を実施する必要性があると考えられる。

科 目 名：統計学（看護学科第２学年前期／必修）
履修者数：53　配付数：50　回収数：28　回収率：56.0%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.7	4.7	4.0	3.0	3.5	3.1	3.3	3.3

＊評価に対するコメント　　統計学　担当教員

社会人（医療人）としての常識程度の統計学の基本の習得を目的としていますが、計算、数字に対しての既得の苦手意識に個人差があったようです。昨年度に引き続いて筆記試験を実施し、今年度も厳しい全体評価をいただきました。本講義を除けば、基本的な計算、数字に触れる機会が看護学科ではなくなってしまいますので、責任をもって取り組みたいと思います。

授業中、フォローアップでの意見も参考にして質を高めていきます。

今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。

科 目 名：看護過程論（看護学科第２学年前期／必修）
履修者数：54　配付数：52　回収数：51　回収率：98.1%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.8	4.9	4.4	4.3	3.6	3.8	4.2	4.1

＊評価に対するコメント　　看護過程論　担当教員

毎回個人学習を課していました。達成レベルに個人差はあるものの、各自が真面目に取り組み、グループワークに臨んでいました。次に看護過程を展開するときは実際に療養されている患者さんの看護実践の場です。この科目での学習成果を十分に活用してください。

科 目 名：病態学（看護学科第２学年前期／必修）
履修者数：53　配付数：53　回収数：53　回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.5	3.7	3.6	3.0	3.5	3.8	4.1	4.5

＊評価に対するコメント　　病態学　担当教員

本年度から担当が変わり、リニューアルした病態学の講義でした。本年度は、必要かつ十分な知識（看護師国家試験レベル）が効率よく学べて、ある程度の達成感が得られるような内容を心掛けて、講義⇒確認テスト⇒確認テストのレビューという進行方法を採用しました。一部の学生さんには病理解剖を見せることができましたし、問７・８に関しては、リニューアル初年度としては良い評価をいただいたと思いますが、後半時間が足りなくなり講義だけになってしまったことなど、反省点も多々あります。今回の評価・コメントを参考にして、来年度はより良い講義に進化させたいと思います。最後に温かいコメントをくれた学生さん、どうもありがとう。励みになりましたよ。

科 目 名：疫学Ⅰ・保健統計Ⅰ（看護学科第２学年前期／必修）
履修者数：54　配付数：54　回収数：54　回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.4	3.8	3.3	2.6	3.0	2.8	2.8	3.0

＊評価に対するコメント　　疫学Ⅰ・保健統計Ⅰ　担当教員

科目疫学・保健統計学は内容が多岐に渡るために、出来るだけわかりやすい講義をすることを心がけましたが、統計学的表現の不統一性や私の勘違い等で学生の皆さんに理解しにくい箇所があり迷惑をかけてしまいました。講義内容の満足度は比較的高いと思いますが、理解度が十分でない者が多いように思いました。疫学Ⅱ・保健統計Ⅱは演習を中心にそれぞれの理解度を深める講義を予定しています。選択科目ですが多くの学生が受講されることを望みます。

科 目 名：英語文献講読（看護学科第３学年前期／必修）
履修者数：56　配付数：56　回収数：45　回収率：80.4%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.2	4.6	3.8	3.4	3.0	3.0	2.6	2.5

＊評価に対するコメント　　英語文献講読　担当教員

「英語文献講読」は、昨年度より旭川医科大学が目指すグローバル化の一環として開講しました。皆さんの感想からは大学生活の中で英語に触れる機会は少なく、とりわけ、医療・看護場面の英語表現は専門的で馴染み難いことが伝わります。一方で、欧米・アジアの医療・看護への関心は強く、世界で活躍する希望が寄せられました。来年度は、皆さんが難渋する言葉の壁を越える努力と広い関心に応えるため幅広く学べる工夫に取り組みたいと思います。

科 目 名：がん看護学（看護学科第３学年前期／必修）
履修者数：56　配付数：56　回収数：40　回収率：71.4%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.9	4.8	4.0	3.5	3.3	3.4	3.1	3.1

＊評価に対するコメント　　がん看護学　担当教員

「がん看護学」は１単位15コマになり、内容展開はより濃度とスピードが増しました。がん看護学の理解には、授業の予習・復習を行う学生の皆さんの積極的な姿勢が求められます。毎年、学生の誰しもが出会うがん患者事例と基本的なケア展開を重視しています。今年は、日程などの工夫により、みなさんの学習成果物の達成レベルが向上しました。みなさんの自律した学習姿勢と事例展開の工夫を継続し、より効率的学習を共に目指したいと思います。

科 目 名：成人看護学Ⅱ（看護学科第３学年前期／必修）
履修者数：56　配付数：55　回収数：42　回収率：76.4%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
3.6	4.7	4.4	4.3	3.9	4.0	4.1	4.0

＊評価に対するコメント　　成人看護学Ⅱ　担当教員

問１と問５以外の項目はすべて4.0以上であり、この講義企画に対して学生はおおむね満足していると云える。問1に関しては、予習と講義理解を深める目的で事前課題を学生に課していたが、昨年度と同様に「3.6」と他の項目よりも低かった。今後は、事前課題が予習であるという意図を学生に明確に伝える。

科 目 名：保健医療福祉システム論（看護学科第３学年前期／必修）
履修者数：56　配付数：51　回収数：31　回収率：60.8%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
2.7	4.6	3.7	3.7	3.6	3.8	3.6	3.7

＊評価に対するコメント　　保健医療福祉システム論　担当教員

この科目は、人々の生活と健康を守るために保健医療福祉の役割を理解し、有機的につなげる役割を看護の立場で考えていただきたく立ち上げました。これは将来チームで働く皆さんにとって重要な内容になると思います。

各専門領域、最前線で活躍されている方々を講師に実践的な内容になるようこころがけました。現場の方の看護職への熱い期待を講義で受け取ることができたでしょうか。

科 目 名：医療安全論（看護学科第４学年前期／必修）
履修者数：62　配付数：57　回収数：50　回収率：87.7%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８
1.9	4.7	3.6	2.3	3.4	3.7	3.5	3.7

＊評価に対するコメント　　医療安全論　担当教員

医療安全論はインフォームド・コンセントを含め、医療安全の基本的な考え方等について視聴覚教材や資料を用いて教授し、グループワークによる事例検討も実施した。

学生による授業評価は、満足度が3.7で全体的に低下していた。しかし、課題レポートにおいては医療における安全の重要性を認識し、卒業後の医療安全へ取り組む姿勢を述べているレポートも多くみられた。授業の開講時期については、第４学年の臨地看護学実習がほぼ終了した時期で理解が深まり適切であると考える。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問１　事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問２　実習（演習）に毎回出席しましたか。 問３　実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問４　実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問５　実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問６　学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問７　指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問８　指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問９　実習（演習）の内容は，関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10　事前に配布された資料は，実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11　実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12　実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13　課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14　実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15　実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16　安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17　学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総　合　評　価	問18　この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

⑤　強くそう思う　　(非常に良い)
④　やや思う　　(良い)
③　どちらとも言えない　　(普通)
②　あまりそう思わない　　(あまり良くない)
①　全くそう思わない　　(良くない)

科 目 名：基礎生物学実習（医学科第１学年前期／必修）
履修者数：113　配付数：113　回収数：102　回収率：90.3%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.9	4.6	4.1	4.4	4.3	4.7	4.5	4.1	4.5	4.2	4.1	3.6	4.0	4.4	4.5	4.5	4.5

＊評価に対するコメント　　基礎生物学実習　担当教員

学生が入学して間もない時期に医学・生物学の基本ツールともいえる光学顕微鏡を使用することもあって、本年度もほとんどの学生が興味をもって実習に臨んだと感じます。学生に光学顕微鏡やスライド標本の正しい扱い方を確実にマスターしてもらうため、ペーパー試験を兼ねた「顕微鏡使用法の実技試験」を新しく導入しました。また、毎年実施しているチャイニーズハムスターの解剖実習を新しいテーマに変更しました（一部の学生からは解剖実習を望むコメントがありました）。このように部分的にではありますが、例年とは異なる実習内容に取り組みましたが大きな混乱はなく、実習全体を通して良好な評価をいただいたと思います。学生に対しては、実習で覚えたことや身につけたことを上の学年になっても忘れてしまわないように、と願っております。そのため、問13の評価が少し低いのは仕方がありません。

科 目 名：医用物理学実習（医学科第１学年前期／必修）
履修者数：112　配付数：112　回収数：112　回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.3	4.9	4.3	3.9	4.4	3.8	3.9	3.5	3.8	4.2	3.8	3.6	3.1	3.3	4.0	4.3	3.8	3.7

＊評価に対するコメント　　医用物理学実習　担当教員

担当教員・実習内容に昨年からの変更はありません。しかし、総合評価は昨年より0.3下がった。問13（提出物の量）と問14（学習意欲）も0.3下がった。問1（予習）に至っては、過去最低です。本実習では、実験だけでなく、レポートの添削指導も行っている。事前指導で、計画的にレポートを仕上げるよう指導しているにも関わらず、今年度はレポート提出締め切り間際に、添削指導を希望する学生が殺到した。その結果、添削の待ち時間が大幅に増加した。これが、問13の低下につながったものと推測する。問1の低下と合わせ、学生の“学ぶ姿勢”に問題があったものと考えている。

科 目 名：生化学実習（医学科第２学年前期／必修）
履修者数：113　配付数：108　回収数：108　回収率：100.0％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.7	4.5	4.2	4.3	4.2	3.8	3.8	4.2	4.4	4.1	4.1	3.6	3.8	4.0	4.3	4.2	4.2

＊評価に対するコメント　　生化学実習　担当教員

生化学１、Ⅱにおける生化学分野の講義が第２学年前期に集中することにあわせ、その過程で実習を展開するものとしてカリキュラムが計画されている。またチュートリアルⅡにおいて生化学実習内容の基本知識を学び、生化学１およびチュートリアルⅡの本分野の試験を実習直前に行なうことにより、実習実施に不可欠な知識を確実に身につけていただき実習に取り組めるように目論んでいる。これらにより、生化学および基礎医学研究に対する親和性と興味、理解の促進に繋がったと判断される（問９：4.2)。自らの取り組み姿勢（問１～３）の高い評価値（4.6,4.7,4.5）に顕著に現れたように、皆さんが自ら興味を持って積極的に実習に取り組んでくれたことは教員としてたいへん喜ばしい。他の評価項目（実習計画・内容・環境、総合評価）については、問13（提出物の内容・量）が最低点3.6であった以外、3.8～4.7とおおむね良き評価を得た。なお、指導担当者の指導能力および指導担当者間の差異・連携の適切性について、“緻密な連携による丁寧な実習指導”を目指し改善を積み重ねてきたが、評価点（問７,８：共に3.8）および自由記載コメントにもあるように、今後さらに改善が必要であると判断している。他方、各教員それぞれが持つ高くユニークなポテンシャルを感じることができた学生の皆さんも多くいたことはたいへん喜ばしい（自由記載コメント多数)。２週間の長丁場にもかかわらず集中を切らさず取り組めたこと、またチームワークの重要性を認識できた方が多くいたことは、実習の他の側面としての意義も十分果たされたと感じている。一方、皆さんが実験や解析を進める上で直面する数々の問題については、先ずは自ら解決するための思考と試行を実践するよう、今後も心がけてほしい。臨床医としてまた医学研究者として将来の活躍を期待される皆さんには、自身の問題解決能力と姿勢を高めるよう、そして論理性や創造性をさらに培っていくよう期待したい。そのためのお手伝いが、学生と教員の接触の場である実習を通してできれば教員としてたいへんありがたいと考えています。

科 目 名：免疫学実習（医学科第２学年前期／必修）
履修者数：113　配付数：106　回収数：78　回収率：73.6％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	4.8	4.5	4.1	4.5	4.3	4.4	4.3	4.2	4.2	4.1	4.2	4.1	4.1	4.3	4.4	4.4	4.3

＊評価に対するコメント　　免疫学実習　担当教員

免疫学実習は専門の講座がないため学内の多くの講座の先生方の御尽力によって行われています。多岐に渡るテーマを取り上げていますが、総合的には4.3の評価を頂いており一応合格点ではないかと思いました。グループの人数に関して多すぎるという意見を頂きましたが、講座持ち出しの費用も多く、教員の数の限界もあります。改善への努力も考えますが、ご理解頂ければと考えます。

科 目 名：骨学実習（医学科第２学年前期／必修）
履修者数：113　配付数：110　回収数：68　回収率：61.8％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	4.8	4.5	4.1	4.5	4.1	4.2	4.0	4.0	4.3	4.1	4.1	4.2	4.3	3.9	4.2	4.3	4.3

＊評価に対するコメント　　骨学実習　担当教員

骨学実習の授業評価の結果については昨年度とほぼ同様であり一定の評価を得たと考えている。本年度は標本の不足（特に頭蓋骨）を指摘する意見が散見された。今後補充を考えたいが、学生諸君の実習実態、例えば実習時間は十分に余っているのに実習が終了したとして実習室から早々に離れる等を考慮するならば、標本と時間をうまくシェアすることで各学生の観察時間は十分に得られるとも考えられる。学生諸君にも一考をお願いしたい。

科 目 名：組織学実習（医学科第２学年前期／必修）
履修者数：119　配付数：118　回収数：95　回収率：80.5%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.3	4.4	3.9	4.0	4.2	3.7	3.9	3.9	4.0	4.0	3.6	3.2	3.4	3.5	3.8	4.0	3.9	3.6

＊評価に対するコメント　　組織学実習　担当教員

昨年度まで組織学実習では、プレテスト、レポート、スライドテスト、出席の4つを総合して多角的な観点から成績を評価するよう心がけてきたが、受講学生の能力低下に伴い「プレテストやレポートが過重である」とのコメントが増えた。そこで、今年度の本科目の評価は、筆記試験（２回）と出席のみでシンプルに行ったところ、「試験だけでは厳しすぎる」との怨嗟の声が多数届いた。正直どうして良いかわからない。ちなみに、今年度の筆記試験結果のヒストグラムを見ると、実習の達成度の高い者（全体の3/4程度）と低い者（1/4程度）を合格基準点付近できれいに切り分けることができている。

科 目 名：微生物学実習（医学科第３学年前期／必修）
履修者数：132　配付数：132　回収数：122　回収率：92.4%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.7	4.8	4.6	4.4	4.6	4.5	4.7	4.5	4.4	4.5	4.4	4.4	4.4	4.2	4.4	4.6	4.5	4.4

＊評価に対するコメント　　微生物学実習　担当教員

本実習では、これまでも、実習オリエンテーションで学生諸君に「実習内容の事前確認」をするように指導してきましたが、これを確実に実践してもらうために始めた「予習レポート提出」方式が4年目となりました。その結果、ほとんど全ての学生は予習してくるようになりました。さらに、今年は、予習ができるようになったので、昨年よりもさらに実習手技等に関する説明を短縮しましたが、特に「説明が足りない」とするコメントが寄せられておらず、来年もさらに短縮しようと考えております。

さて、今回は、学生の実習室からのトイレ退出を申し出制にしました。これは、学生数が大幅に増加したことで学生の把握が少し難しくなったことと、病原体等安全管理規定が整備され、病原体の取り扱いをより慎重にしようとする配慮から、そのようにさせていただきました。来年も同様な申し出制にしますので、学生諸君のご理解をお願いします。最後に、実習全体の満足度は4。4と高く、学生は実習にうまく集中できており、実習レポートも優れたものが多くあったことをうれしく思いました。学生諸君と教室員の協力に感謝致します。

科 目 名：生理学実習・演習（医学科第３学年前期／必修）
履修者数：132　配付数：132　回収数：112　回収率：84.8%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.8	4.6	4.3	4.5	4.2	4.3	4.2	4.3	4.4	4.2	4.2	3.6	4.2	4.0	4.2	4.2	4.2

＊評価に対するコメント　　生理学実習・演習　担当教員

例年と同様に課されたレポートの量に対する評価は3.6と低かった。自由記載の欄でも、レポートの量が多いと感じているとともにレポート提出期限が短いと感じている学生が多いことがわかる。しかしながら、限られた時間の中で一つ一つの実習結果を適切にまとめる能力を身につけることは意義深いと考えている。多くの実習項目は評価を得ており、総合評価は、4.2と昨年とほぼ同様であった。

科 目 名：薬理学実習（医学科第３学年前期／必修）
履修者数：132　配付数：132　回収数：65　回収率：49.2%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.7	4.6	4.5	4.6	4.5	4.6	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.4	4.5	4.6	4.6	4.6

＊評価に対するコメント　　薬理学実習　担当教員

薬理学実習は、生体に投与した薬物が効いていることの実体験、さらには、得られた結果から妥当な薬理作用を考察し、講義で得た知識を定着させることを目的としている。予想通りの結果にならない場合もあったが、予想と違った結果から新しい知見を得ることも多いので、うまくいかなかった場合、その原因は何か？そう考えることを是非心がけて頂きたい。この実習が、諸君の知識定着の一助となっていれば幸いである。

科 目 名：病理学実習（医学科第３学年前期／必修）
履修者数：133　配付数：133　回収数：122　回収率：91.7％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.5	4.5	4.2	4.4	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	3.9	4.0	4.2	4.3	4.4	4.4	4.2

＊評価に対するコメント　　病理学実習　担当教員

今年も腫瘍病理分野と免疫分野で７回ずつ計14回の実習を行い、夏休みの直前に試験を行った。学生の皆さんは一所懸命に実習に取り組んでいたと思われる。腫瘍病理に関しては、スケッチの分量を昨年よりも減らしたため、多少余裕をもって観察ができたようである。例年再試該当者が多いので画像をもっと配布すべきだとの声もあったが、学内で公開されているバーチャルスライドを参照して欲しい。試験答案を見ると、全体的に基本の習得が不十分であることが窺われるため、来年度からの実習の進め方を工夫していきたい。

科 目 名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第１学年前期／必修）
履修者数：62　配付数：59　回収数：57　回収率：96.6％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	5.0	4.8	4.6	4.5	4.5	4.4	3.8	4.4	4.6	4.0	4.2	3.6	4.2	4.4	4.5	4.0	4.3

＊評価に対するコメント　　基礎看護技術学Ⅰ　担当教員

基礎看護技術学Ⅰは演習科目であり、学生の皆さんは技術を学ぶ経験が初めてで戸惑うことが多かったのではと推測します。毎回出席しました（5.0）が、予習は十分だった（3.9）でしょうか。課された提出物の量が多い（3.6）と感じているようですが、学習目標の達成に必要な量です。また、教員間の連携は十分とは言えなかったようです（3.8）。演習前には必ず教員間で打ち合わせをしています。同じ意味でも表現が違うことがあったかと推測します。そのような場合には、なるべく早く質問していただきたいです。質問することでお互いに共通認識ができ、より良い学習、より良い指導につながると思います。

科 目 名：基礎看護技術学Ⅲ（看護学科第２学年前期／必修）
履修者数：53　配付数：53　回収数：31　回収率：58.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.4	4.8	4.8	4.4	3.9	4.3	4.3	4.0	4.5	4.3	4.1	4.2	3.2	3.9	4.3	4.4	3.9	4.2

＊評価に対するコメント　　基礎看護技術学Ⅲ　担当教員

演習には予習も含め積極的な取り組みが見られました。予習ノートによる学習はこれまでの学習方法を振り返り、ポイントのまとめ方など「役に立つ学習方法」を獲得する手がかりにもなったと感じています。学習方法を更に洗練させ、能動的に臨むことを期待します。教員の統一した指導方法について疑問や意見がありました。演習前に教員間で確認や話し合いを設けております。疑問に感じたその都度伝えていただけると、説明ができると思いますので、声を掛けてもらえると幸いです。

科 目 名：小児看護学演習（看護学科第３学年前期／必修）
履修者数：56　配付数：55　回収数：52　回収率：94.5％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.7	4.7	4.5	4.5	4.1	3.6	3.4	4.2	4.2	4.0	4.1	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	4.1

＊評価に対するコメント　　小児看護学演習　担当教員

評価は4.0前後となり、学生にとって概ね満足できた内容と考えます。最も高いのは「毎回の出席」と「積極的で真面目な参加」でした。今後もこのような学習姿勢が継続するよう期待しています。また、授業は教員４名で担当し、連携に関する評価は低い結果となりました。教員間の連携を強化しつつ、学生の予習・復習を支援し、自己学習の習慣化を意図した授業展開を進めていきたいと考えます。

科 目 名：実践看護技術学Ⅰ（看護学科第３学年前期／必修）
履修者数：56　配付数：54　回収数：46　回収率：85.2%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.7	5.0	4.8	4.7	4.3	4.2	4.0	3.7	4.2	4.3	4.0	4.0	3.1	4.0	4.0	4.3	4.2	4.2

＊評価に対するコメント　　実践看護技術学Ⅰ　担当教員

満足度は4.2と高いが、課題の多さ、ミニテストの配点、教員の連携などについて意見がありました。また、実践看護技術学Ⅱと事例の共通化を図ったところ、(意図的にバイタルサインなど状況を変えていたのに)「違っていてとまどった」「同じにしてほしい」「紛らわしい」という意見が散見されました。なぜ同じにしていないか、その意図について看護実践の場を想起・想像して目的を考えてほしいと思います。

科 目 名：成人看護学演習（看護学科第３学年前期／必修）
履修者数：56　配付数：54　回収数：32　回収率：59.3%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	5.0	4.8	4.4	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.3	3.8	4.0	3.7	3.9	4.0	4.2	4.1	4.2

＊評価に対するコメント　　成人看護学演習　担当教員

この演習は、実習で患者に基本的な看護技術が安全・安楽に提供できるために知識を持つことが必要である。そのための事前学習は重要である。全体では、課された提出物の量や内容は適切かの評価が低い。しかし、事前学習は大変だったがとても勉強になったとのコメントもあり、事前学習の必要性を理解している学生もいた。

他の項目の評価点からは、積極的に取り組んでいることが伺われた。今後は事前学習の大切さが理解できるように演習を行っていきたい。

科 目 名：精神看護学演習（看護学科第３学年前期／必修）
履修者数：56　配付数：54　回収数：52　回収率：96.3%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.9	4.7	4.5	4.3	4.6	4.6	4.3	4.5	4.4	4.0	4.3	4.3	4.6	4.5	4.7	4.8	4.6

＊評価に対するコメント　　精神看護学演習　担当教員

「総合評価（問18)」と「出席評価（問4.9)」の評価から、おおむね演習科目として、学生が積極的に学びながら到達目標を達成することができたと考えます。今回、担当教員はこの科目を初めて担当しましたが、「指導能力（問６)」「安全（問16)」「人権（問17)」に対して一定の評価をしていただきました。今後は、「予習」の評価を高くすることを目標に、学生の学習意欲をより高められる講義内容の検討をしていきます。

科 目 名：母性看護学演習（看護学科第３学年後期～第４学年前期／必修）
履修者数：62　配付数：62　回収数：37　回収率：59.7%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	4.7	4.5	4.2	4.2	4.2	4.1	4.0	4.3	4.3	4.0	3.9	4.1	4.1	4.2	4.3	4.0	4.0

＊評価に対するコメント　　母性看護学演習　担当教員

この科目は、３学年から４学年と学年を跨いで５つのグループに分けて、平成27年１月から７月末まで実習直前週に実施した科目である。それぞれの学生にとっては翌週から始まる母性看護学実習のための演習である。全体に難易度以外は４点以上であり、出席率、、評価結果も高く、学生が主体的に取り組んだと思われる。内容の難易度（3.9）については、翌週の臨地実習をふまえると、必要最低レベルの演習内容なので学生諸君にはしっかりと身につけてほしいと考えている。練習時間を考慮するなど、検討する。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実　習　計　画	問１　実習ガイダンスは，実習を円滑に行うために役立った。 問２　指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実　習　内　容	問３　実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問４　実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問５　指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問６　教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問７　受け持ち患者の看護の難易度は，適切であった。 問８　カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実　習　環　境	問９　教員・実習指導者の対応は，学生を尊重したものでった。 問10　安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総　合　評　価	問11　実習によって，看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12　この実習は全体として満足できるものであった。

⑤　強くそう思う　　(非常に良い)
④　やや思う　　(良い)
③　どちらとも言えない　　(普通)
②　あまりそう思わない　　(あまり良くない)
①　全くそう思わない　　(良くない)

科 目 名：基礎看護学実習Ⅰ（看護学科第１学年前期／必修）
履修者数：61　配付数：59　回収数：59　回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.5	4.3	4.5	4.2	4.6	4.5	4.3	4.2	4.3	4.5	4.5	4.6

＊評価に対するコメント　　基礎看護学実習Ⅰ　担当教員

実習の満足度は高く、看護職者を目指す意欲が高まったことがわかり、嬉しく思います。患者さんとの出逢いや指導していただいた実習病棟の指導者からの助言や説明により皆さんの看護に対する考えや理解が深まった結果と考えます。実習時間について意見がありました。「病棟実習」「学内実習」「学内カンファレンス」の構成には実習期間でしか行えない学びの幅を広げるねらいがあります。その時間で何を如何に学びとるかということを意識して臨んでもらえることを期待します。

科 目 名：精神看護学実習（看護学科第３学年後期～第４学年前期／必修）
履修者数：62　配付数：62　回収数：31　回収率：50.0%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.0	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.1	4.3	4.4	4.3	4.3

＊評価に対するコメント　　精神看護学実習　担当教員

精神看護学実習は、旭川医科大学病院（病棟・外来）及び指定就労継続支援Ｂ型事業所で行いました。実習目標は、患者の個性や人間関係を重視し、コミュニケーション技術を用いて看護することです。全体評価が4.3、全平均4.3であり、また前年度3.8であり課題であった問8については、4.1に改善しました。よって、より学びが深まった実習になったと考えます。今回の実習における学びが、今後の看護実践に活かされることを期待しています。

科 目 名：小児看護学実習Ⅰ（看護学科第３学年後期～第４学年前期／必修）
履修者数：62　配付数：62　回収数：35　回収率：56.5%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.0	3.9	4.2	4.5	4.2	4.1	4.2	4.3	4.1	4.3	4.1	4.2

＊評価に対するコメント　　小児看護学実習Ⅰ　担当教員

学生評価は4.0前後であり、学生にとって概ね満足できる実習であったと考えます。この実習は、健康な小児を理解することが目的です。社会の少子化、核家族化により、学生の多くは子どもと接する機会が少ないまま本実習を履修することになります。それでも、保育園の実習指導者や保育園児に助けられながら学びを深めたようです。この実習が今後の学習に繋がることを期待します。

科 目 名：小児看護学実習Ⅱ（看護学科第３学年後期～第４学年前期／必修）
履修者数：62　配付数：62　回収数：28　回収率：45.2%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.6	4.3	4.5	4.4	4.8	4.6	4.5	4.3	4.5	4.5	4.4	4.5

＊評価に対するコメント　　小児看護学実習Ⅱ　担当教員

学生評価は4.0台であり、学生にとって概ね満足のできる実習であったかと考えます。教員や実習指導者からの助言については、「適切」「具体的」という評価でした。加えて、「関連する講義科目と対応がとれていた」という評価も受けました。今後も教員と実習指導者、それぞれの強みを活かして、連携を取りながら学生の教育に当たっていきたいと思います。

科 目 名：成人看護学実習Ⅰ（看護学科第３学年後期～第４学年前期／必修）
履修者数：62　配付数：62　回収数：32　回収率：51.6%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.6	4.4	4.5	4.6	4.8	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6

＊評価に対するコメント　　成人看護学実習Ⅰ　担当教員

成人看護学実習Ⅰは、旭川医科大学病院６階西病棟、９階西病棟の内科病棟で行っている実習です。回収率が51.6%と低いですが、例年4.0前後の平均点が約4.575とポイントが上昇しており、概ね学生の満足感も高かったようです。特に指導に対するコメント説明に対する評価が高くなっています。これからも病棟との連携をとりながら、成人看護学実習Ⅰを行っていきたいと思います。

科 目 名：成人看護学実習Ⅱ（看護学科第３学年後期～第４学年前期／必修）
履修者数：62　配付数：62　回収数：41　回収率：66.1%

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.5	4.5	4.5	4.2	4.7	4.6	4.3	4.2	4.7	4.7	4.5	4.7

＊評価に対するコメント　　成人看護学実習Ⅱ　担当教員

成人看護学実習Ⅱは、旭川医科大学病院６階東病棟、９階東病棟の外科病棟で行っている実習です。手術患者を担当させていただくため展開が早い実習ですが、今年度の満足度は4.7と高く平均値も4.48ポイントと好評価でした。記録とカンファレンスに関して4.2とやや低目ですが、記録はコメントにちょうど良かったと書いている学生もあり個人差があると考えます。カンファレンスに関しては、実習に効果的な時期などについて病棟と検討したいと思います。

科 目 名：成人看護学実習Ⅲ（看護学科第３学年後期～第４学年前期／必修）
履修者数：62　配付数：61　回収数：35　回収率：57.4％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.4	4.6	4.5	4.7	4.6	4.5	4.4	4.4	4.5	4.6	4.4	4.5

＊評価に対するコメント　　成人看護学実習Ⅲ　担当教員

この実習は、内科・外科系外来、点滴センター、内視鏡室や看護外来、入退院センター、地域連携室にて見学実習を行っている。その中で学生は、外来を受診する対象者の健康障害を理解し、必要な看護支援やチーム医療における看護師の役割や継続看護を実施するための必要な能力を養うことを目標にしている。

評価としては、各項目の評点にばらつきがなく、概ね良好と考える。

科 目 名：母性看護学実習（看護学科第３学年後期～第４学年前期／必修）
履修者数：62　配付数：62　回収数：33　回収率：53.2％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
4.0	4.3	4.4	3.9	4.3	4.2	4.4	4.1	4.2	4.3	4.2	4.2

＊評価に対するコメント　　母性看護学実習　担当教員

１週間の周産母子センター病棟実習と、残りの１週間で外来実習・母親学級の企画プレゼンテーションを内容とする実習である。記録物に関する評価以外は４点以上であり、短期間ながらも、密度の濃い実習に対する学生の努力に敬意を払う。４月から実習を直接担当する教員が変わったが、その影響は少なかったと考える。記録物に関しては、１年生から使用している学科全体のものと書式が異なっていたため、学生には戸惑いもあったと思われる。慣れた書式に戻すなど、検討する。

科 目 名：在宅看護学実習（看護学科第３学年後期～第４学年前期／必修）
履修者数：62　配付数：62　回収数：23　回収率：37.1％

＊評価結果（平均）

問１	問２	問３	問４	問５	問６	問７	問８	問９	問10	問11	問12
3.1	3.2	3.9	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.2	4.1	4.1

＊評価に対するコメント　　在宅看護学実習　担当教員

問１、問２以外の学生評価は4.0前後であり、概ね学生にとって満足いく実習であったと考えます。しかし、課題として読みとれた「ガイダンスの満足度（問１）」に関しては内容や時期を、「指導教員と実習指導者の連携（問２）」に関しては学生を含む3者間の連携を、「回収率の低さ」に関しては配布方法や配布場所について検討していきます。

医学科第５学年地域枠学生との懇談会を開催しました

本学学生のキャリアプラン支援委員会の主催により、医学科第５学年地域枠学生との懇談会が、平成28年１月15日（金）本学第一会議室において開催されました。

懇談会には、医学科第５学年の44名と、大学側からは、吉田学長をはじめ、卒後臨床研修センター、教育センター、入学センター及びキャリアプラン支援委員会の委員の先生方10名と医学科第５学年学年担当の藤田教授が参加されました。

懇談会では、まず初めに、吉田学長から「地域枠入学者に係る基本的な考え方等」についての説明があり、次いで、卒後臨床研修センター長　大崎教授からの「本学の卒後臨床研修プラグラム」についての説明が行われました。

その後の質疑応答では、学生から、卒後臨床研修プログラムに関する質問や、自らのキャリアプランについての相談等があり、活発な意見交換が行われました。大学では、今後も、色々な形で情報提供を行っていきますので、不明な点などがある場合には、卒後臨床研修センターや学生支援課にお気軽にお問合せください。

不要自転車の引き取りについて

卒業や買い替えなどで、不要になった自転車はありませんか？

本学では、毎年、自転車の無償提供を希望する学生が多いため、このような学生の皆さんに有効利用してもらいたいと考えています。

なお、自転車が不要になった場合には、決して大学構内の駐輪場等に放置しないようお願いします。学内の放置自転車は持ち主が分からないため、リユースすることができず、廃棄処分せざるを得ない状況です。

不要になった自転車で、まだ使用できる状態のものがありましたら、事前に学生支援課学生総務係までご連絡ください。

また、自転車を譲ってくださる際には、近くの交番等で防犯登録の抹消手続きを済ませた後、大学に持参願います。

平成28年度授業料免除の申請について

本学では、授業料の納入が困難な学生に対して、選考のうえで授業料の全額もしくは半額を免除する制度を設けています。以下の基準のいずれかに該当すると思われる学生で、授業料免除を希望する場合は、次のとおり申請手続を行ってください。

１．授業料免除基準

（１）　経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合。
　なお、平成28年度において原級に留め置かれている者、又は最短修業年限を超えて在学している者は、免除の対象とはなりません（病気・留学により休学した者は除きます。）。

（２）　授業料納期前６か月以内において、学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡した場合、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が困難であると認められる場合。

（３）　（２）に準じる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合。

※授業料滞納者の授業料免除申請は受理しません。

２．配付期間

平成28年２月10日（水）～３月11日（金）17時15分まで（土日祝日を除く。）

３．申請期間

平成28年２月10日（水）～４月11日（月）17時15分まで（土日祝日を除く。）

４．配付場所・申請書類提出場所

学生支援課学生総務係

平成28年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生で経済的な理由で就学困難な者に学資を貸与しています。

本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦します。ただし、日本学生支援機構では奨学金貸与の種別ごとに推薦基準が定められており、その資格があっても採用枠の関係で推薦できない場合があります。

平成28年度の募集説明は、４月15日（金）午後５時から看護学科大講義室において実施する予定ですので、希望者は必ず出席してください。なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生支援課学生総務係に相談してください。

訃　報

本学名誉教授黒田一秀氏（享年95才）には、平成27年９月５日（土）逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和48年９月本学設置と同時に．泌尿器科学講座教授、同49年10月に初代の副学長（医療担当）、同51年５月初代附属病院長に就任されました。そのあと、同56年７月１日に本学学長に昇任、２期６年間の任期満了により同62年６月退職、本学名誉教授の称号を授与されました。

この間、永年にわたって、医学の研究と学生の教育・研究指導にあたられ、医学・医療の発展・進歩に多大の貢献をなされました。

また、学術研究面では、泌尿器科学、特に脊髄損傷患者の神経因性膀胱に関する研究、尿路形成術に関する研究、その他腫瘍・結核等に関する研究にご尽力され、国内はもとより国際的にも高く評価されました。平成３年からは日本排尿機能学会名誉会長を務められておりました。

昭和51年11月「神経因性膀胱の臨床的研究」により北海道医師会賞を受賞、平成５年春、勲二等旭日重光章を受章される等、その功績はまことに顕著でありました。

この度、生前の功績により、正四位を授与されました。　（総務課）

学生証再交付の有料化について

第161号でもお知らせしましたが、平成28年４月１日から、学生証再交付の際には手数料がかかります。

学生証の再交付については、これまでは無料としてきましたが、紛失等による再交付枚数が年々増加してきていることや受益者負担の観点から、再交付に係る手数料を有料とし、実費相当額の1,000円を徴収することとなりました。ただし、学生証の磁気不良やＩＣ不良、改姓による再交付の場合には手数料はかかりません。

なお、再交付を希望する時は、従来どおり学生支援課学生総務係において「学生証再交付願」を届け出てください。

手数料を必要とする場合
- 紛失、盗難、カード破損
- 顔写真の変更を希望するとき

手数料を必要としない場合
- 磁気不良、IC不良
- 改姓

☆ 悪用防止のため、紛失・盗難の場合は、最寄りの警察署・交番に届け出てください。

☆ スマートフォンやテレビなど、強い磁気を発する物に近づけたり、キャッシュカード等の他の磁気カードと一緒に保管したりすると磁気が壊れる場合がありますので、学生証の保管には気を付けてください。

教　員　の　異　動

平成27年12月31日	辞　職	病院脳神経外科	講　師	石橋秀昭
平成27年12月31日	辞　職	病院麻酔科蘇生科	病院准教授	鈴木昭広
平成28年１月１日	昇　任	病院麻酔科蘇生科	講　師	笹川智貴
平成28年２月10日	配置換	内科学講座(消化器・血液腫瘍制御内科学分野)	教　授	奥村利勝

今後のスケジュール

春季休業　２月22日（月）～　医学科第１～３学年、医学科第５学年、看護学科第１・２学年
　　３月７日（月）～　看護学科第３学年
　　３月14日（月）～　医学科第４学年

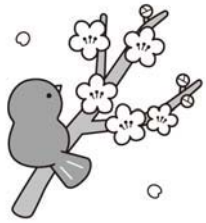
３月11日（金）　一般入試後期日程設営
３月12日（土）　一般入試後期日程
} 入学試験の実施に伴い、３月11日(金)・12日(土)は構内への立ち入りが制限されます。
３月18日（金）　医師国家試験合格発表日
３月25日（金）　学位記授与式，保健師・助産師・看護師国家試験合格発表日
４月６日（水）　入学式

※学位記授与式（卒業式）及び入学式は、午前10時30分から本学体育館において行います。
　なお、当日は、自家用車での来学はご遠慮願います。

第162号表紙の写真について

今月号の表紙の写真は、２月６日から11日まで開催された「第57回旭川冬まつり」のメイン雪像、「あさっぴーランドへようこそ」。高さ20メートル、幅130メートル、奥行き40メートルの巨大雪像は、さっぽろ雪まつりの大雪像と比べてもかなりの大きさですが、旭川市のゆるキャラ「あさっぴー」と「ゆっきりん」を見ていると心が癒されます。

会場を訪れた方もいるかと思いますが、オープニングセレモニーでは、旭川観光大使になった人気お笑い芸人「とにかく明るい安村」さんが体を張った芸を披露し、会場を盛り上げていたようですね。



学生支援課では、皆さんからの写真を募集しています。
課外活動での様子、旅先での１枚など気軽に応募してください。
ご提供いただける方は、学生支援課学生総務係までご連絡ください。

平成28年３月９日

旭川医科大学学友会会員及び関係者の皆様

旭川医科大学学友会会長
旭川医科大学長
吉　田　晃　敏

旭川医科大学学友会会費の私的流用事案と今後の改善策について

拝啓　皆様におかれましては、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本学では、会員（学部学生及び教員並びに特別会員）の正課活動の援助並びに会員相互の親睦と心身の向上を図ることを目的とした「旭川医科大学学友会」を組織して各種事業活動を行っておりますが、皆様には、日頃よりご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

学友会は、会則により事務職員を置き庶務及び会計の事務を行うこととしており、本学教務部学生支援課がその職務を担ってきたところですが、このたび同課の元職員による会費の私的な流用事案が発覚いたしました。

元職員は、学友会事務処理を長年にわたり担当し、平成27年３月に退職しましたが、平成19年１月から平成27年３月までの長期間にわたり、学友会の繰越金を含む会費　約2,300万円を私的に流用していたもので、この事実は退職後に発覚いたしました。

なお、私的に流用された金額は、元職員から既に全額が弁済されており、学友会の各種事業への影響はありません。

去る２月19日に開催した学友会代表委員会におきましても、事件の概要、再発防止に向けた予算管理及びチェック機能の強化を目的とした運営体制改革について報告させていただいたところです。

今回、本学の職員が、このような不祥事を起こしたことは、誠に遺憾であり、学友会会長として深くお詫び申し上げます。

また、このような不祥事を長年にわたって見逃していた管理体制の不備につきましては、再発防止策の実行により、今後、二度とこのようなことのないよう徹底し、皆様方の信頼を回復するため努力してまいりますので、引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

敬具

本件に関するお問い合わせは
旭川医科大学教務部学生支援課(西田)
電話(0166)６８-２２０１